

# 1 令和4年度自己評価の実施

期間／令和5年2月14日～令和5年2月16日

実施人数／19名

## 2 集計

a…十分わかる・十分できている

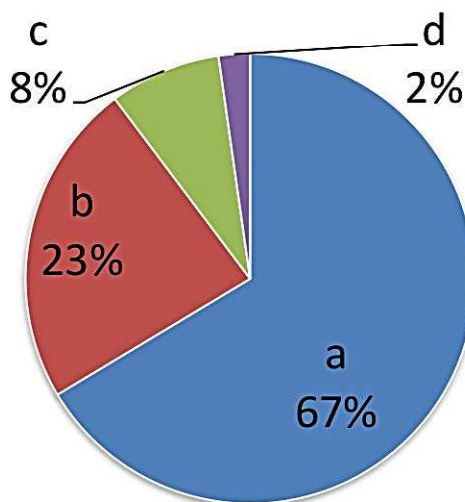
b…おおむねわかる・おおむねできている

c…あまりわからない・やや不十分

d…ほとんどわからない・改善を要する

評価項目	a	b	c	d
(1) 保育理念	90	52	8	11
(2) 子どもの発達 (養護、乳児保育(健康、食事、人間関係、環境、言葉、表現、延長保育、障がい児保育))	1033	349	115	21
(3) 保護者に対する支援 (喜びの共有、保育内容の説明・個別支援、地域保育所機能の開放、関係機関との連携)	315	120	58	17
(4) 保育を支える組織的基盤 (健康安全の実施体制、保育計画と内容の自己評価、職員の資質向上)	356	109	36	12
※数値は、評価項目を構成する複数の評価基準項目ごとにaからdまでの評価に該当する職員数の累計数である。	1794	630	217	61

## 3 評価の割合



## 4 評価結果と今後の課題(総評)

- 1 総合的な評価としては、昨年度比a、b評価が各々2ポイント、1ポイント低下し、逆にc、dのマイナス評価が各々2ポイント1ポイント上昇する残念な結果。
- 2 保育理念に関しては、c、d評価の職員が割的に増えている。知識の底上げが必要と感じた。
- 3 こども発達援助の項目中、「食事」、「環境」、「表現」、「障がい児保育」のc、dのマイナス評価点が2桁ありました。「食事」については当園で対応しない項目があり低評価はやむを得ない。「環境」、「表現」の項目中には保育内容の工夫次第では改善できるものがある。コロナ禍前の園外行事なども参考に園児にできるだけ感動や想像力、表現することの楽しさにつながる行事を取り入れていく必要を感じました。
- 4 「保護者に対する支援」、「保育を支える組織的基盤」カテゴリーにもc、d評価が一定数見られました。
- 5 重要なテーマや評価の低いテーマ、項目については、職員会議後のミニ研修や職員研修テーマに追加するなど検討していきたい。

## 5 評価結果と今後の課題(項目別)

(1) 保育理念	<p>全体的に評価が下降傾向。理念に関して、学ぶ機会を取り入れていく。</p>
(2) 子どもの発達支援	<p>1 養護:C評価が数名いた。園児の情緒や安心感につながる項目であり、意識して取り組むことが必要。</p> <p>2 健康:各項目ともプラス評価がほとんどで、各職員に浸透している。衣服の着脱、眠くない子どもへの配慮がやや不十分が若干名いた。</p> <p>3 食事:コロナ禍が続いたこともあり、事実上楽しく食事を行えるような言葉がけなども難しかった。園で対応していない項目もあり低評価はやむ得ない。今後は楽しく食事をとれるよう工夫することが重要。</p> <p>4 人間関係:「つまづき、けんか、葛藤などの経験が成長に欠かせないものととらえ適切に対応しているか」の項目が低かった。これらは成長していく通過点の一つととらえ、達成感を味わえる活動を取り入れたたりしてよいこと、悪いこと、決まりを守ることなどを繰り返し伝えていく必要がある。</p> <p>5 言葉:「正しい言葉遣いや声の大きさ」の評価が低かった。普段から正しい言葉遣いをするよう留意していく必要がある。</p> <p>6 表現:「豊かなイメージをもてる機会」、「感じたことを自由に表現できる機会」の評価が低かった。自由に表現できる機会については、遊びや学習の中で、園児が思ったことを発表したり、友だち同士で表現する機会を持つことは意欲や感性の育みにつながり取り入れていく必要がある。</p> <p>7 乳児保育:乳児保育の各項目は肯定的な評価である。合同保育や乳児クラスへのヘルプも頻繁にあり、引き続き乳児保育に関する知識・経験を積み重ねていきたい。</p> <p>8 延長保育:「家庭的な雰囲気が感じられる配慮をしている」項目のC評価が数名いた。延長保育時は園児数が少なくなるので一人ひとりに寄り添った保育を行っていく必要がある。</p> <p>9 障がい児保育:障がい児保育に関する研修参加は昨年なかった。研修参加を希望する職員もいるので検討していきたい。</p>
(3) 保護者に対する支援	<p>1 成長の喜び共有:「保護者の子育てを支援する」、「保護者の子育てに対する不安や悩みを受け止め適切に助言する」項目にC評価が数名いた。保育士として保育園の役割、保護者の悩みに親身になって対応できる姿勢と知識を身につけていく必要がある。</p> <p>2 個別支援:「こどもの医療や保健相談窓口を知っているか」の項目でC評価が複数名いた。青森市の施策(子ども・教育、福祉・健康カテゴリー)などについても知識を持つておく必要がある。</p> <p>3 関係機関との連携:情報交換・交流保育については、小学校・保育所接続事業の一環としてオンラインで行った。今後、情報交換や交流保育については、機会があれば対応していく。</p>
(4) 保育を支える組織的基盤	<p>1 自己評価:「年度の目標を明確にして保育しているか」、「職員会議等で保育の質向上につなぐ発言しているか」の項目について、C、D評価が一部見られました。一定の到達目標を持って業務に従事することは重要。自分なりに頑張ればできるかもという目標を2つ3つ持つことと節目ごとに(例えば上半期末、下半期末)設定した目標の進捗状況を確認していくことは重要です。職員会議等での発言については、立場に関係なく発言できるような環境・雰囲気づくりを行っていく。</p> <p>2 健康及び安全体制:多くの職員がa評価であったが、b、c評価も見られた。この項目については、全員a評価となるよう努力していきたい。</p>